

12月22日・火曜日 2020年(令和2年)

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

(157)

モビリティー時代が到来しつつある。一方で、近年インターネット経由で多様なIT資源をオンデマンドで利用できるクラウドサービスの普及により、クラウドサービスを利用する企業の割合は2018年時点でも約59%にも達する。

モビリティー時代の非現実的である。データモビリティー時代におけるエッジとクラウドの役割はどうあるべきか。クラウドの利点は、多数のモバイルエッジは個々の「分散知」を抽出できる点にある。しかし、モバイルエッジはこの集合知に基づき、モバイルエッジに内包されるナビゲーション機能のモデルを「エッジ連携AIクラウド」と呼んでいる。

我々はこれまで、都内のタクシー会社と連携し、500台程度のモバイルエッジを走行中のドライバーにメッセージ通知／ナビゲーションを実現してきた。乗客情報記録の正確組みを営業中のタクシーモデルを「エッジ連携AIクラウド」と呼んでいる。

これは車載カメラ映像接続ができるサービス

Wi-SUN互換の無線通信技術を用いる車

Wi-Fi-Taxi

から乗客情報を自動抽出されれば解決でき、

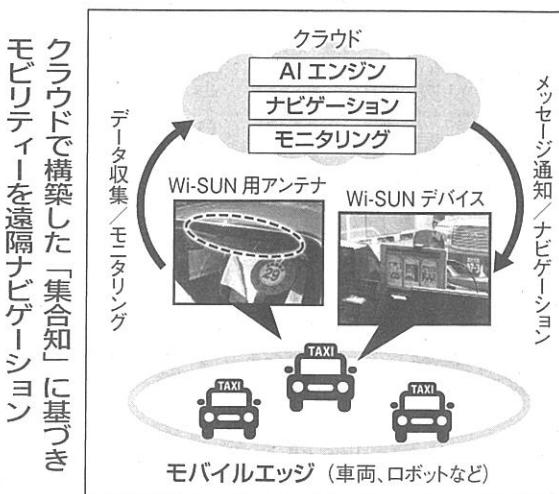
さらに、エッジ連携AIクラウド技術を使うことで全車両で共通して高精度な自動乗客発見が実現できる。

現在、AI映像処理機能およびクラウド連携機能を搭載した車載向けIoT（モノのインターネット）無線ルーターおよびAIクラウド基盤の開発を進めている。

今後、タクシー基盤を使った実証実験や、自律移動型ロボット間の連携実証など有用性を検証していく予定である。

## エッジ連携集合知でモビリティーエッジ誘導

総合テストベッド研究開発推進センター・ソーシャル－CTシステム研究室主任研究員 中内 清秀



クラウドで構築した「集合知」に基づきモビリティーを遠隔ナビゲーション

クラウドで構築した「集合知」に基づきモビリティーを遠隔ナビゲーション

モビリティー時代が到来しつつある。一方で、近年インターネット経由で多様なIT資源をオンデマンドで利用できるクラウドサービスの普及により、クラウドサービスを利用する企業の割合は2018年時点でも約59%にも達する。

モビリティー時代が到来しつつある。一方で、近年インターネット経由で多様なIT資源をオンデマンドで利用できるクラウドサービスの普及により、クラウドサービスを利用する企業の割合は2018年時点でも約59%にも達する。

## 科学技術・大学